

<p>2. 事業の概要と成果</p>	
<p>(1) 上位目標 の達成度</p>	<p>対象住民の「生活の質の改善」という上位目標達成に向けて順調に進捗している。</p> <p>「生活の質の改善」は、教育機会に加え、安全な飲み水へのアクセス、病気への耐性、安定した収入源など、生活向上に関連するとみられる複数項目を総合的に捉えて定義している。</p> <p>5項目設定しているそれぞれの成果も課題こそあれ、順調に発現してきている。すでに読み書きができる住民は、図書館を利用し、農業や保健衛生などの書籍を読み、学んだ知識を生活向上に役立てている。読み書きができない住民は、識字教室に参加し、カリキュラムに沿って多岐にわたる生活向上の基礎知識についての座学を通して、その礎となる読み書き計算を習得している。¹ また、本事業の識字後プログラムは、対象地域の識字状況からプログラムの意義を柔軟に解釈し、識字習得のみに固執せず、生活向上のための「実体験」を重視した研修を開催している。これにより、識字が苦手な住民も生活向上に役立つ実践的な知識、技術を学び、その後、多くの参加者が農作物の収穫・収入向上など、実生活の向上に結びつけている。このような研修参加者の多くは識字学習者であることもあり、本事業において、識字学習と生活向上に直結する体験学習（農業、保健衛生など）の融合が進んでいる。言い換えると、図書館、識字・識字後プログラムが1つの枠組みの中に統合され、これらの活動が互いに相乗効果を生み出しているといえる。</p> <p>なお、本事業は5カ年計画事業であり、最初の3年間に日本NGO連携無償資金協力の事業として実施した。残りの2年間は自己資金による継続活動・フォローアップを行う予定であり、そのため上位目標の達成については未だ途上にある。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p><u>1) 地域学習センター（CLC）設立及び運営指導</u></p> <p>3年次の活動は概ね計画通り完了したが、地域住民の代表が主体となり、CLCを効果的な生涯教育施設として自立運営していくことに依然として課題が残っている。CLC 6館目タアンは、建設と平行して住民代表計10名（運営委員会メンバー7名、センター職員3名）を対象に初年度の運営能力強化研修が完了し、10月から開館した。事業開始から2、3年目にあたるその他のCLC 5館については、日々の運営について住民代表への実地訓練を続けた。8月には6館の住民代表と教育・青少年・スポーツ省（以下「教育省」という。）の関連職員計53名を集結し、運営向上に向けて互いに学び合う機会として「CLCネットワーク研修」を開催した。しかしながら、これら住民が主体となって運営向上について案を練り、それを実践に移していくことなどが全館を通して未だに困難で、地域住民による自立運営には依然として課題が残っている。</p> <p><u>2) 識字教室を通じた基礎スキル（読み書き・計算）の提供</u></p> <p>教育省の都合により識字教室の開催に遅れが出たものの、3年次の活動は概ね計画通り完了した。3月には教師の教室運営能力を強化するため、前年同様、当国で識字事業に長年の実績を持つカンボジアに学校を贈る会（ASAC）の識字教師のトレーナーにより、CLC 6館の識字教員6名を対象に成人に対する識字教授法の研修会を実施した。今年も教育省の予算支払いの遅れから、識字教室の開催が州により1～2ヶ月遅れたが、5、6月から7ヶ月間（4館目コークバランのみ6ヶ月間）、週6日、夕方の2時間、新設のタアンCLCを除く5館で、生活向上の基礎知識を学びながら読み書き計算を習得する識字教室が開催された。CLC 1館目ニーベックでは19名（女性11名、男性8名）、2館目ロンコーでは17名（女性15名、男性2名）、3館目サンコーでは15名（全員女性）、4館目コークバランでは14名（全員女性）、5館目オープラサットでは23名（全員女性）、計88名が受講、今年の中退者も出ず全員が修了した。2館目ロンコーの識字教室だけは、参加者の要望からCLC内では実施せず、参加者の多くが住んでいる村</p>

で一室を借りて実施した。

教育省が支給することになっていた教師の給与は遅れて支払われたが、教材、参加者の文具等は、最後まで支給されないものもあったため、本事業で費用を捻出するなどして柔軟に対応した。なお、今年度に予定していた識字教室運営マニュアルと成人向け識字教材1作品の制作については、現地担当職員の退職などもあり、2017年以降、自己資金にて継続する予定。

3) 識字後プログラムの改善、構築・拡充

住民主導により定期的にCLCで生活向上研修を行うことが困難であったため、事業計画時に期待されていた効果が発現するようアプローチに修正を加えた。住民主導で定期開催ができなかった理由に、地域の人的資源として研修の講師を務める農業普及員の育成が十分でなかったことが挙げられる。これまで各CLCに農業普及員を育成するため、農業専門団体の協力の下、野菜栽培・養鶏・稲作の研修を実施してきたが、この方法では研修後のフォローアップが十分に行えていなかった。そのため、5月からは事業に専属の農業コンサルタントをおき、各普及員の農地を訪れて行う個別指導を含め、何度でも細やかなアフターケアが行えるよう計らった。

また、本事業支援CLCでは、World Visionなどの他団体が農業や保健衛生を含め、多岐に渡る研修を頻繁に実施しているため、住民代表が支援調整に入り、これらの研修をCLCの生活向上研修に組み込むよう努めた。

その他、対象地域においてCLCを拠点とした先進的農業技術の普及のため、1館目ニーベックと2館目ロンコーには、普及を目指す農業技術の「見える化」の一環で実験農場を設置、CLC利用者が直接見て触れられるようにした。11月には全6館の農業普及員計43名に対し、本事業でいち早くSRI（稲集約農法）の導入に成功した、2館目ロンコーの農業普及員の水田を巡り、成功体験を聞く「SRIスタディツアー」を開催した。

今後の課題は、センター職員・運営委員会が中心となって、育成された農業普及員を利用してCLCで生活向上研修を定期開催することと、これら住民代表が他団体と支援調整を直接行えるようすることである。

4) 対象集合村にて地域学習センター（CLC）に対する認知度の向上

住民主導で定期的にCLCの推進活動を行うことが困難であったため、事業計画時に期待されていた効果が発現するようアプローチに修正を加えた。各館で開催されるセンター推進イベントを住民代表が中心となって実施できるよう指導は続けたが、住民代表の実施能力を現実的に判断し、地域の他の公共施設でのイベント開催時にセンターを広報するよりも、他団体と協力した映画上映会や青年団のコンサート等、センター内での推進イベントの開催に専念した。また、センター職員の役割と環境教育についてのポスターを制作、各館で利用している。

5) 関係局・団体・組織間のネットワーク構築

3年次の活動は概ね計画通り完了した。教育省、NEP²それぞれが主催するノンフォーマル教育作業部会など、当国のノンフォーマル教育、CLCについての最重要会議に参加し、本事業の経験、成果、リソースを随時共有、当国における本事業のCLCモデルの浸透を図った。また、この目的と本事業のCLCで活動する他団体との支援協調を進める

¹ カンボジア教育省のよる識字プログラムは、ただ読み書き計算を学ぶのではなく、7ヶ月間のコースの中で、保健衛生、農業、貯蓄、起業、行政サービスの利用などの生活向上の基礎知識を含む、20章以上のテーマを題材にしなが、段階的に読み書き計算が習得できるよう工夫されている。

² NGO Education Partnership。教育省の政策に対して大きな影響力を持つ、当国の教育支援団体ネットワーク。

	ため、本事業のウェブサイト（英語）を制作した ³ 。					
(3) 達成された成果	1) CLC委員会・職員・行政担当官を対象に、コミュニティによる運営自立化のための能力強化がされる					
	【指標】(ア) 委員会が独自に運営費用を調達できるようになる (教育省負担分の「センター所長給与」と「識字教室運営費」(識字教師給与と生徒の文具費)を除く) 1年目：30%、2年目：60%、3年目：90%					
	【現状】概ね達成 本事業支援CLCの年間運営費用はおおよそ\$1,000と見込み、この額を本事業中に達成すべき最終目標(100%)と定義している。これを踏まえると、3館目サンコーを除いて指標を達成している。CLC運営の恒常経費の大部分を占める図書館員の給与に関しては、新設の6館目タアンを除き、運営2、3年目の5館で集合村行政の予算への組み込みが完了している。					
2016年度CLC運営費用調達状況(12月時点)						
	#1	#2	#3	#4	#5	#6
運営期間	27ヶ月	25ヶ月	20ヶ月	14ヶ月	14ヶ月	3ヶ月
指標達成状況	3年目指標： 90% (\$900)		2年目指標： 60% (\$600)		1年目指標： 30% (\$300)	
	達成	達成	未達成	達成	達成	達成
	91%	191%	47%	206%	238%	188%
	合計	合計	合計	合計	合計	合計
	\$913	\$1,908	\$474	\$2,058	\$2,382	\$1,875
	図書館員給与	図書館員給与	図書館員給与	図書館員給与	図書館員給与	敷地盛土代
	\$750	\$825	\$450	\$600	\$600	\$1,875
	(\$62.5 × 12ヶ月)	(\$50 × 6ヶ月) + (\$87.5 × 5ヶ月)	(\$50 × 9ヶ月)	(\$50 × 12ヶ月)	(\$50 × 12ヶ月)	
	その他費用	その他費用	その他費用	落成式費用	CLC電化費・電気代	
	\$163	\$1,025	\$24	\$1,125	\$323.5	
		柵設置		CLC電化費・電気代	0	
		\$1,025		\$135		
		その他費用		その他費用	CLC水道設置・水道代	
		\$57.5		\$197.5	\$268	
				5	井戸設置費	
					\$300	

³ <https://svacambodiablog.wordpress.com/>

						敷地盛土代 (追加) \$ 800	
						その他費用 \$ 84	

【指標】(イ) 委員会が独自に地域からニーズを拾い活動に反映できるようになる
 1年目：当会職員同伴で、月例会議を定期的実施している
 2年目：指導付で実施している
 3年目：当会職員の指導なしで指標達成

【現状】一部未達成
 3年目に入ったCLC#1・2は、未だ当会職員の指導なしに地域からニーズを拾い活動に反映することが困難である。2年目のCLC#3～5は、当会職員の指導があれば行うことができる。1年目のCLC#6は未だ月例会議を定期的開催できていない。

【指標】(ウ) センター業務・活動が計画の8割以上実施できるようになる
 1年目：計画時から当会職員の指導付で8割以上実施している
 2年目：計画は当会職員と作成するが、活動は指導なしで8割以上実施している
 3年目：計画時から指導なしで指標達成

【現状】条件付達成
 全館について、前年度に次年度の活動計画を作成するという作業ができていないため判断が難しいが、日々の開館日程については、図書館員の離任後の空白期間などの特別な理由がないかぎり、基本的には計画通り、午前と午後週5、6日開館している。CLCの定期活動である生活向上研修会の月例開催とセンターの推進イベントの隔月開催については、当団体の開催したものだけでなく、他団体の活動も組み込んだ6館の平均開催率は計画の81%となり、指標の8割を辛うじて達成している。

2016年度CLC定期活動開催状況(12月時点)

	CLC#1			CLC#2			CLC#3			CLC#4			CLC#5			CLC#6			合計		
	SVA	他団体	合計	SVA	他	計	SVA	他	計	SVA	他	計	SVA	他	計	SVA	他	計	SVA	他	計
生活向上研修開催[毎月予定]																					
実施回数	4	5	9	7	10	17	3	6	9	4	3	7	4	2	6	0	0	0	22	26	48
実際/計画(%)	9/12	75%	17/12	142%	9/12	75%	7/12	58%	6/12	50%	0/3	0%	48/63	76%							
CLC推進イベント[隔月予定]																					
実施回数	0	3	3	0	13	13	0	6	6	1	0	1	0	5	5	0	0	0	1	27	28
実際/計画(%)	3/6	50%	13/6	217%	6/6	100%	1/6	17%	5/6	83%	0/1	0%	28/31	90%							
生活向上研修+CLC推進イベント																					
実施回数	4	8	12	7	23	30	3	12	15	5	3	8	4	7	11	0	0	0	23	53	76
実際/計画(%)	12/18	67%	30/18	167%	15/18	83%	8/18	44%	11/18	61%	0/4	0%	76/94	81%							

2) 識字教室を通して、対象集合村の貧困世帯が基礎スキル(読み書き・計算)を習

得する

【指標】(ア) 教育省の識字能力試験に受講者の8割が合格できている。

本年度：8割

【現状】条件付達成

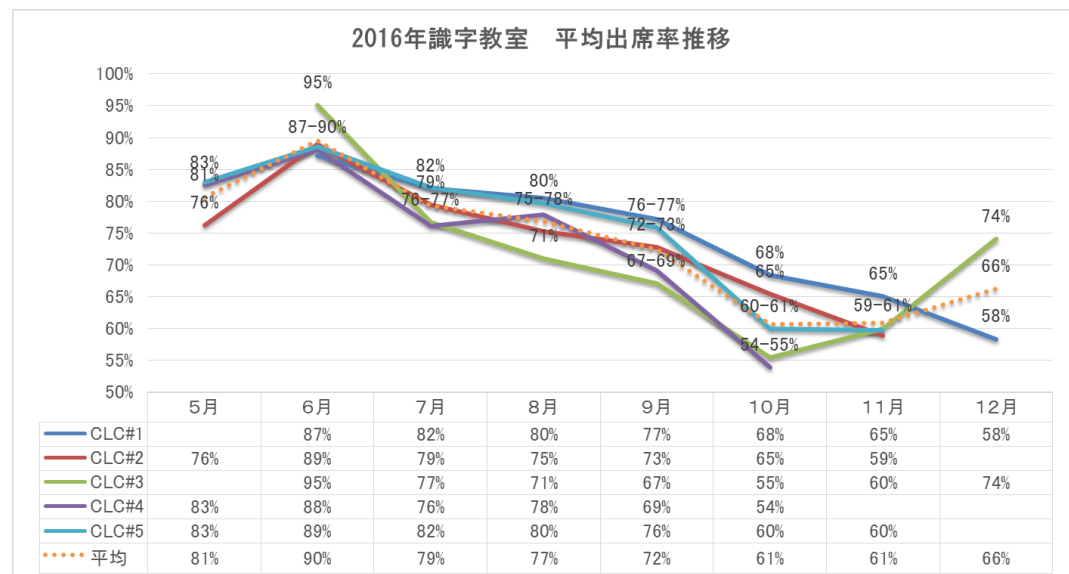
前年度から教育省が識字能力試験の採点を行わず、教室修了者を全員試験「合格者」とみなしていることがわかったため、本指標は実質【指標】(イ)と変わらなくなっており、(イ)が達成されていることから条件付達成とした。

【指標】(イ) 受講者の8割がコースを完了する。 本年度：8割

【現状】達成

今年度の識字教室は、CLC5館で合計88名参加、中退者が一人もせず、受講者全員が修了した(修了率100%)。修了した受講者88名の7ヶ月間の日々の平均出席率は74%と高水準を保った(下図)。昨年同様、10月には国民的祝日による連休があり、11月は収穫期であるため、出席率は落ちる傾向にある。

2016年度識字教室 平均出席率推移



3) 対象集合村の貧困世帯が生活改善のための知識を習得する

【指標】(ア) 講義参加者の8割が、習得した知識・技術を生活改善に活用している(インタビュー形式で図る) 本年度：8割

【現状】達成

本事業1年次から育成を行った農業普及員候補は今日まで全館で延べ115名に達するが、このうち109名に対し聞き取りを行ったところ、この83%(91名)が習得した知識・技術をすでに生活改善に活用していると回答した。

昨年明らかとなった「育成された稲作の農業普及員候補が、習得した知識・技術を生活改善に十分に活用していない」という問題に対し、5月から事業に専属の農業コンサルタントをおき、各世帯を訪問して行う個別指導などより細やかな対応を始めた結果、稲作の農業普及員候補の活用率が前回調査時(2015年6月)の10%から

94%に向上し、大幅に問題が改善された。

また、野菜栽培についても前回調査時の59%から77%に向上した。とりわけ、CLC1館目ニーペックの住民代表によると、同集合村において野菜栽培はすでに普及員を越えて一般世帯まで広く波及している。以前は同集合村で野菜栽培をしている世帯はほとんど存在しなかったが、本事業が農業普及員候補を育成し、これらの普及員が野菜栽培で収入向上も含む大きな成功を収めたことにより、近隣の世帯がこの先進的な技術を模倣していき、現在、野菜栽培は自然発生的に集合村全土に急速に普及していている（住民代表談）。

なお計画時、本指標の測定に各CLCで一般住民を対象に開催されている生活向上研修の参加者からの聞き取りを想定していたが、研修から一定期間おいた後の不特定多数への聞き取りと、その全館分のデータ集計・分析を続けるのは非常に困難であると判断し、代替指標として、各CLCで育成された農業普及員候補を対象に聞き取りしたデータを使用している。

2017年3月 CLC#1～6 農業普及員候補 習得知識・技術 利用状況

	野菜栽培		養鶏		稲作		合計	
研修人数	53		23		39		115	
聞き取り人数	52		21		36		109	
習得した知識・技術を生活改善に活用している (人数/全体比)	40	77%	17	81%	34	94%	91	83%
習得した知識技術を生活向上に利用していない (人数/全体比)	12	23%	4	19%	2	6%	18	17%

※2017年3月に普及員候補合計115人中、109人に対し聞き取り調査を実施。一部の普及員候補は出稼ぎに出ているなどの理由で聞き取りを行えなかった。

4) 対象集合村にて地域学習センター（CLC）に対する認知度が向上する

【指標】（ア）対象集合村の住民の5割がセンターの役割及び活動を認知している
本年度：5割

【現状】達成

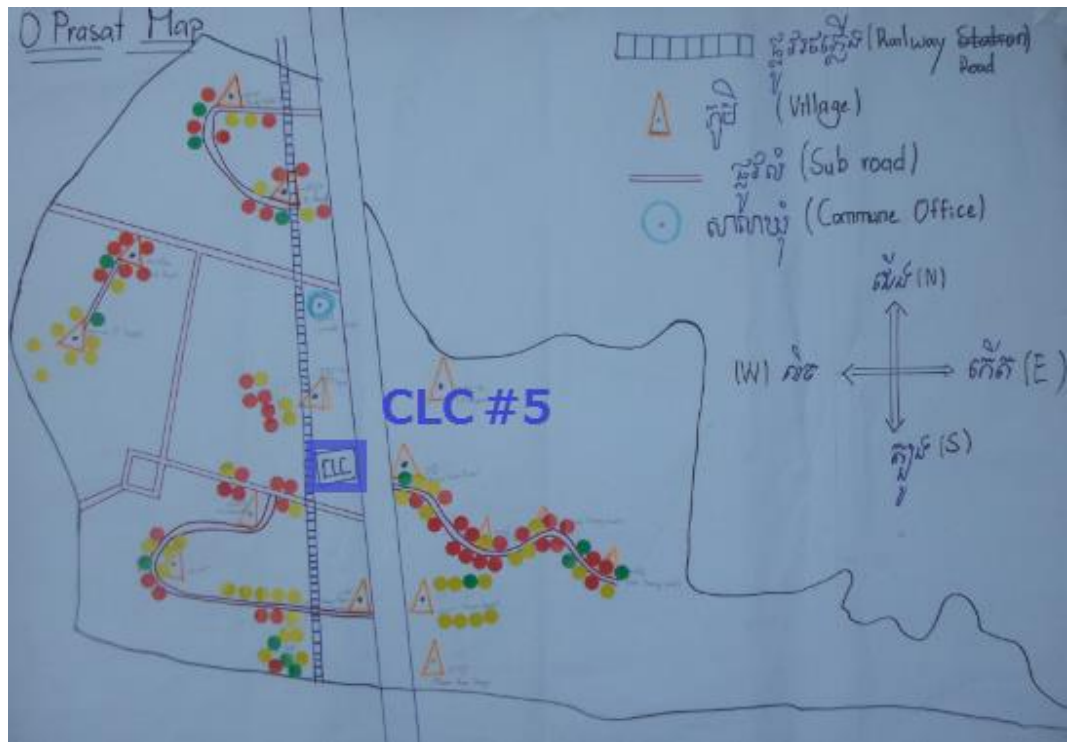
CLC#1～3は2016年1月、CLC#4～6は2017年3月に集合村全土を対象に無作為抽出サンプル調査を実施し、住民の認知度と利用率を計測し、その結果を以下の表にまとめた。6集合村の平均で、68%の住民がCLCを認知しており、このうち半分の住民が実際にCLCを利用したことがわかった。CLC#3と5の対象集合村における認知度が著しく低いが、これは当該2集合村が他の対象地域に比べて村数、人口が多い事もあり、その広大な地域をカバーするほどの十分なセンターの広報活動が実施できていないことを露呈しており、今後の課題となっている。

CLC# 1～6 対象地域内 住民認知度と利用率

	CLC#1	CLC#2	CLC#3	CLC#4	CLC#5	CLC#6	合計
回答人数	82	110	123	112	112	117	656
CLCのことを知っていて、 利用したことがある(人数) (緑シール)	61 74%	42 38%	16 13%	35 31%	14 13%	58 50%	226 34%
CLCのことは知っているが、 利用したことがない(人数) (黄シール)	15 18%	48 44%	25 20%	55 49%	48 43%	32 27%	223 34%
CLCのことを知らない(人数) (赤シール)	6 7%	20 18%	82 67%	22 20%	50 45%	27 23%	207 32%

※CLC# 1～3は2016年1月、CLC# 4～6は2017年3月に
集合村全土を対象に無作為抽出サンプル調査を実施。

CLC対象地域内 認知度と利用率地図 (※画像は認知度が低いCLC# 5の例)



5) 本事業のCLCやノンフォーマル教育へのアプローチがモデル化され対象地域以外に広められる

【指標】(ア) 本事業のCLCやノンフォーマル教育へのアプローチ、或いはSVAが行っている政策提言のいずれかが、教育省で採用される、もしくは採用予定となる。

(1. 図書室を持つCLC、2. 識字教室を行うCLC、3. 生活向上手段として農業、保健衛生のプログラムを持つCLC、4. ノンフォーマル教育へのカジュアルなアプローチ)

【現状】達成済み

昨年7月、本事業の実践を取り入れたカンボジア教育省による省令「CLCの設立と運営」が公布され、本指標にある1～4のすべてのアプローチが盛り込まれた。

【指標】(イ) CLCやノンフォーマル教育事業を実施している3団体が、本事業のアプローチ/成果をその事業地に活用する

	<p>【現状】事実上達成</p> <p>同省令「CLCの設立と運営」は、教育省・NGO運営問わず、2017年までに当国すべてのCLCが満たすことを求めているため、CLC事業を実施している3団体以上が、本事業のアプローチを事業地に活用することが期待できる。</p>
<p>(4) 持続発展 性</p>	<p>これまでの本事業における政策提言の影響で、2015年に教育省はCLCに、運営スタッフにインセンティブを払うこと、年間の運営費を出すことを決定した。以前は、運営スタッフは全員ボランティア、年間の運営費は教育省からは支出されていなかった。これらの費用はNGOが支援中は申請できないが、地域コミュニティと教育省にハンドオーバー後は支給可能とされ、且つ運営スタッフへのインセンティブについては教育省による支給実績があるため、本事業支援CLCの持続性を高めることに貢献すると考えられる。</p> <p>また、上述のとおり、本事業実践を取り入れた教育省の省令が公布され、さらに、本事業がESD岡山アワード2015においてグローバル賞を受賞したことにより、今後、事業の成果がカンボジアを越え、世界に波及していくことが期待される。これは、事業の成果が世界のCLC、ノンフォーマル教育のあり方に新風を巻き込み、その結果として、ノンフォーマル教育で学ぶ機会を求めているすべての人たちの暮らしや生き方に貢献する可能性を示している。</p> <p>更に、上述の省令は、これから設立されるCLCの質の向上の基準となるため、質の高いCLCの波及が期待できる。</p>